
「3D hologram を用いた Mixed Reality の事前学習による内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (Endoscopic retrograde cholangiopancreatography; ERCP) 関連手技における有用性の検証」に関するお知らせ

このたび、当院で内視鏡処置を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、【埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2015年4月1日から2025年7月31日の期間に【埼玉医科大学国際医療センター】を受診し、内視鏡的膵胆管造影検査(endoscopic retrograde cholangiopancreatography (ERCP))関連手技を実施した20歳以上の患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

胆管結石治療や胆管狭窄診断のために行われる内視鏡手技である、ERCP手技は困難であると言われています。X線透視を頼りに行いますが、透視画面は2次元であるため、手技中の解剖把握が困難なことがあります。近年、専用の医療用画像処理ソフトウェア(Holoeyes MD)を用いて、患者さんのCT・MRI画像を、3次元空間映像(3D hologram)処理を行い、ヘッドセットから供給されるMixed realityを活用し、事前学習することで、3次元に胆管を把握しERCP手技の成功率の向上につながるのではないかと期待されています。そこで、3D hologramを用いたMixed Realityの事前学習を行った後に施行したERCP関連手技を行った患者さんの成績をまとめて、本事前学習が有用であったかどうかを検討させて頂くこととしました。

3. 研究期間

病院長の許可後～2029年3月31日です。

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度です。

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

- (1) 患者さんの背景(性別、生年月、過去の御病気)
- (2) ERCP前と翌日の血液検査

(3) ERCP 処置に関する調査項目 (ERCP 手技成功率等です。)

(4) 有害事象の有無および内容の確認

※この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学国際医療センター】において、研究責任者である谷坂 優樹が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

ERCP 手技を実施した際の処置データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

・埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科 谷坂 優樹（研究責任者）

4. 試料・情報の管理責任者

・埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯 俊昭

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科 谷坂 優樹

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4111（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：3D hologram を用いた Mixed Reality の事前学習による内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (Endoscopic retrograde cholangiopancreatography; ERCP) 関連手技における有用性の検証

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科 谷坂 優樹